

中学生を対象とした「歩くまち・京都」学習

井上 了祐・三原 康弘・永田 直也（京都市都市計画局歩くまち京都推進室）
藤井 聡（京都大学大学院工学研究科教授）

水山 光春（京都教育大学名誉教授）
高橋 咲衣・東 徹（一般社団法人システム科学研究所）

▶ 「歩くまち・京都」憲章の制定

「歩くまち・京都」憲章

わたしたちの京都では、市民一人ひとりは、
1 健康で、人と環境にやさしい、歩いて楽しい暮らしを大切にします。
そして、市民と行政が一体となって、
1 だれもが歩いて出かけたくなる道路空間と公共交通を整え、
賑わいあるまちを創ります。
1 京都を訪れるすべての人が、
歩く魅力を満喫できるようにします。

平成22年1月23日、市民・観光客の皆様、そして事業者、行政が一体となって「人が主役の魅力あるまちづくり」を進めるための事柄を明確にするために「歩くまち・京都」憲章を制定

理念実現のための
具体的な取組

▶ 「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定

憲章の理念を実現するため、交通まちづくりのマスタープランとして「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定 令和3年11月30日には改訂版として「歩くまち・京都」総合交通戦略2021を策定

非自動車
分担率を
85%以上に

目標を実現するための3つの柱

- 柱1 持続可能なまちづくりを実現する公共交通ネットワークの取組
- 柱2 誰もが「出かけたくなる」歩行者優先の魅力あるまちづくり「まちづくり」の取組
- 柱3 歩いて楽しい暮らしを大切にスマートなライフスタイルの更なる促進「ライフスタイル」の取組

▶ モビリティ・マネジメント教育

平成24年度に「学校MM検討会」を設置し、「モビリティ・マネジメント教育」の普及に向けて検討を開始。教員の提案に基づき「学校MM検討会」での議論を通じて、小学生の発達段階に応じた指導方針・学習指導案・教材を作成。令和3年度から中学生を対象に、社会科の授業案を検討・実践

低学年

バスとの親近感を育む

バスに関する知識やバスに対するおもしろさをクラスで共有することを通じて、バスに対する親近感を育む、すなわち、「バスと仲良くなる」ことを目指す。

中学年

自分の生活とクルマとの関わりを学ぶ

過度なクルマ利用による問題等を通して、自分とクルマとの関わりを多面的に考えさせる。加えて、行動変容の動機づけを行い、より望ましい交通行動を自ら選択できる態度を育む。

高学年

社会とクルマとの関わりを学ぶ

社会とクルマとの関わりを考えさせることを通じて、より望ましい交通行動を自ら選択できる態度を育む。さらに、社会の問題は1人では解決できなくても、仕組みを変えていくことで解決できることに気づかせる。

▶ 令和3年度以降の主な取組

「歩くまち・京都」学習勉強会

令和3年度は、勉強会に参加した教員のチームごとの授業構想に合わせて、交通課題や先進事例、交通施策事例等を掲載した教材用データ集を作成し、中学校の社会科の授業で活用いただけるよう授業モデルを3種類作成した。令和4年度は、モデル校において授業を実施するとともに、作成した3種類の授業モデルを京都市立中学校教育研究会社会科部会で配布することにより「歩くまち・京都」学習勉強会の検討内容を周知した。令和5年度は、これまでの成果を「日本社会科教育学会」と「全国社会科教育学会」で発表した。中学校の社会科においてモデル授業とアンケート調査を実施した。アンケートの結果によると「公共交通を積極的に利用したい」「京都市の公共交通を維持していかなければならないと思いますか」といった検証項目について、授業の実施によってポジティブな変化が確認された。今後は、これまでの切り口とは異なる新たな授業モデルを作成するとともに、中学校等でのモデル授業を通じて得られたアンケート結果の分析・活用などに取り組み、活動の更なる拡充を図っていく。

地理的分野 中項目C(4)地域の在り方

地理的分野の最終単元＝探究的な地理的分野の学習のまとめ

- 空間的相互依存作用、地域などに開く視点に着目し、地域の特色や地域の課題と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力
- 世界と日本の様々な地域で学習した知識や概念、技能を生かす
- 地域の課題を見出し考察するなどの社会参画の視点を取り入れる

→主権者として地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度

京都府は、世界有数の観光地である（観光客がある）イメージされる一方、人口減少や高齢化に伴う課題、観光公害などの課題も抱えている。これらの課題を空間的相互依存作用によって改善する方策を見出すことが京都府としての生徒にとって重要な学習となる。

→C(4)「地域の在り方」

2022 中学校でのモデル授業の実践

中学校社会科において「地理的分野」を取り上げる機会が少ない

- 自らが暮らす地域と他地域をつなぐ方策として活用するともに、生徒自ら暮らす地域の課題も、他地域との相互依存作用を基に解決するプロセスを捉えるようにしたい。
- 公共交通をこのように捉えることができれば、
- 公共交通の導入・維持を促すリポート・ドリットについて検討する「シナジー」を把握する
- 「自らが暮らす地域と他地域をつなぐ方策として活用する」として「公共交通」を捉える
- 「公共交通」を捉える「自らが暮らす地域と他地域をつなぐ方策として活用する」として「公共交通」を捉える
- 「公共交通」を捉える「自らが暮らす地域と他地域をつなぐ方策として活用する」として「公共交通」を捉える

京都市立桃山中学校での実践



4時間目 フィールドワーク(1クラスのみ)

京都市乗鞍中での実践



京都市立桃山中学校での実践



本実践の成果と課題

成果① MM教育のブラッシュアップ
成果② GIGA端末を用いたオンライン交流
成果③ 「地域の在り方」における「地域」の問い直し

- 生徒の「地域」に対するイメージ→中学校区が限界?
- 京都市全体をイメージすることは難しい
- 財政の問題への偏重→地域の課題になりにくい
- シミュレーションを取り入れると建設的に考えられる

課題 以上の成果を踏まえた単元の改善・実践

本実践の成果と課題

自問自答(課題)→課題を解決するための実践的取組

- 成果① GIGA端末を用いたオンライン交流の実践事例
- 成果② 地域を主題とする授業のある実践
- 成果③ 公共交通を捉えたとした汎用性のある単元開発
- 成果④ デジタル教材の開発・活用データの収集・分析

課題① 新しい授業モデルの開発 ② 地域、環境、歴史など
課題② 実践内容の実現可能性→公民的分野や総合への接続
課題③ 小学校・高等学校「地理的分野」との接続
課題④ 地域の発展に合わせた柔軟なカリキュラム・マネジメント

「歩くまち・京都」学習は、市民性、国民性の育成を企図した実践的な教育である「モビリティ・マネジメント教育」「シチズンシップ教育」である。各地域の学校教育現場において広がりつつあるものの、その取組の継続性や拡大が課題となっている。京都市では、引き続き、教育委員会や中学校教育研究会社会科部会など、関係機関と連携を深めるとともに、バス等の利用促進に取り組む地域団体と学校との連携を模索するなど、引き続きモビリティ・マネジメント教育に取り組む。